

芙蓉リースグループ
CSR報告書
2017 ハイライト版



前例のない場所へ。

私たちは考える。
 リースとはモノを貸すことではない。
 発想を、頭脳を、驚きを貸すことだ。
 私たちは考える。
 無理難題こそ歓迎したい。
 新たなビジネスは、そこからしか生まれない。
 私たちは考える。
 期待に応えるのは義務である。
 期待を超えてこそ仕事である。
 私たちは考える。
 とともに成功するのはたやすい。
 苦しい時も向き合えるのがパートナーである。

私たちは行動する。
 この国のビジネスを、もっと自由にするために、
 私たちから大胆になる。
 リースにできることを広げてゆく。
 私たちは芙蓉リースです。

CONTENTS

- 1 コーポレートスローガン
会社概要
- 2 トップメッセージ
- 3 ESCOサービス
- 5 リマーケティング事業
- 7 建物リース
- 9 出資
- 10 太陽光発電事業
環境負荷低減の実績
- 11 社会貢献活動「アクアdeスマイル」
- 13 「働き方改革」推進

会社概要

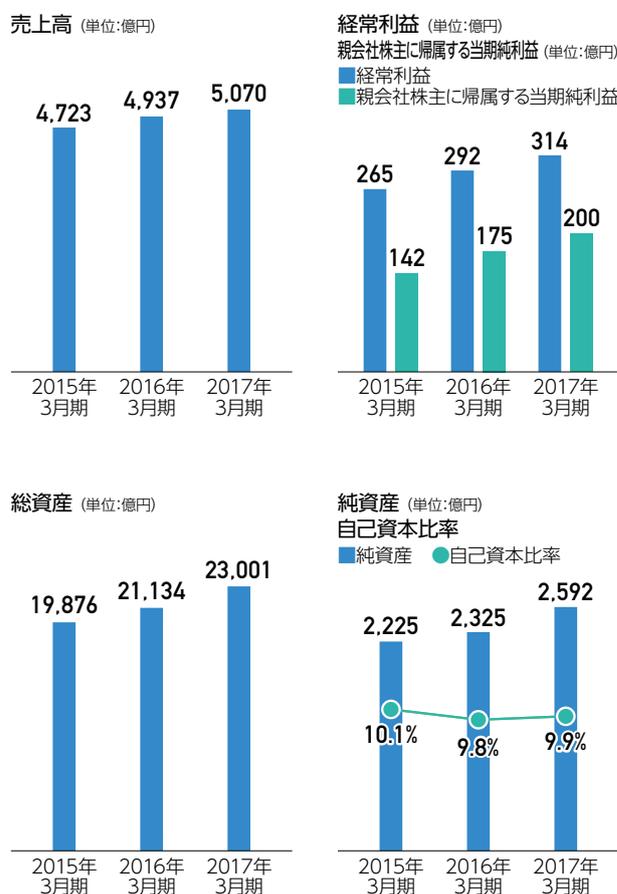
企業データ

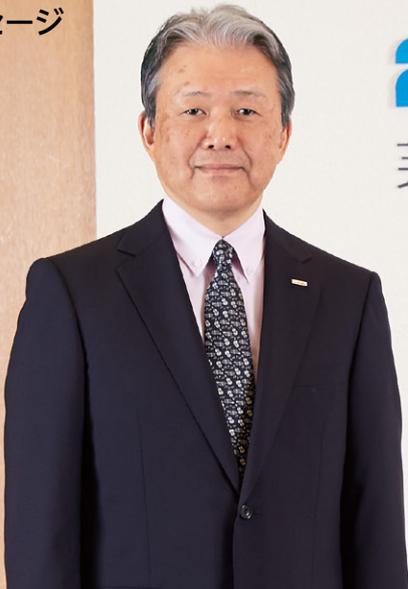
(2017年3月31日現在)

商号	芙蓉総合リース株式会社 (Fuyo General Lease Co., Ltd.)
設立	1969年5月1日
資本金	10,532百万円
上場市場	東京証券取引所 市場第一部 (コード:8424)
従業員数	連結1,703名、単体689名
本社所在地	東京都千代田区三崎町3丁目3番23号 TEL: 03(5275)8800(代)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報関連機器、事務用機器、産業機械、 工作機械、商業用店舗設備、医療機器、 船舶/航空機/車両ならびに輸送用機器、 建築土木機械などのリースおよび 割賦販売業務 ● 金銭の貸付、その他各種金融業務 ● 不動産リース ● 各種コンサルティング業務
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内:本社営業部および16拠点 ● 海外現地法人:5社6拠点
主な国内 連結子会社	<ul style="list-style-type: none"> ● シャープファイナンス株式会社 ● 芙蓉オートリース株式会社 ● アクリーティブ株式会社 ● 株式会社エフ・ネット ● 株式会社芙蓉リース販売 ● 株式会社エフ・ジー・エル・サービス ● 株式会社アクア・アート

業績などの推移(連結)

※3月決算





FUYO LEASE

芙蓉総合リース株式会社

新たなCSR活動の目標のもと、
事業を通じて社会課題の解決に
取り組んでいます。

代表取締役社長 辻 田 泰 徳

皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

芙蓉リースグループは、2017年度から新たに5年間の中期経営計画「Frontier Expansion 2021」をスタートさせました。この「Frontier Expansion」という名称は、コーポレートスローガンである「前例のない場所へ。」の実践により、未知なるビジネス領域を切り拓き、フロンティアを拡大し続ける企業でありたいという思いを込めて名付けたものです。

また、新中期経営計画の策定に合わせ「CSR行動指針」を見直し、CSR活動に関する目標を設定しました。

社会課題の解決に持続的に貢献していくためには、本業をベースにしたCSR活動に取り組むことが重要です。そのため当社グループでは、従来からの環境関連分野に加え、新たに医療福祉関連分野においても数値目標を設定し、事業の推進と地球環境や社会への貢献を同時に実現できる取り組みを着実に進捗させています。

例えば、環境関連分野では太陽光発電事業の強化を進

め、2021年度にグリーンエネルギーの供給量を現在の約2倍となる140MWにまで拡大する計画です。一方、医療福祉関連分野では、高齢者施設の不足が懸念されていることを踏まえ、業界に先駆けて老人ホームなど高齢者施設の建物リースに取り組んでいます。また、日本初の手術支援ロボットの開発を手掛ける企業への出資などを通じて、先端医療分野の発展を支援しています。

こうした取り組みは当社グループの社員によって支えられており、企業が社会に貢献し続けていくためには多様な社員が十分に力を発揮できる環境の整備が不可欠です。そこで、ダイバーシティと働き方改革を推進し、すべての社員が自律的に仕事と生活の質を高められるよう支援するとともに、「年次有給休暇」「男性社員の育児休業等」の取得率についても数値目標を設定しています。

芙蓉リースグループは、今後もこれらの取り組みを継続していくことで、環境問題の解決や持続可能な社会の実現に貢献していきます。

CSR行動指針

FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組む、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- ① 環境関連分野、医療福祉関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- ② 再生可能エネルギー事業者として、グリーンエネルギーの供給を推進します。
- ③ 3R^{*1}の実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- ④ アクア・アート事業^{*2}を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。
- ⑤ 社員一人ひとりのライフスタイルを尊重した、「働きやすく」「全員が活躍できる」職場環境をめざします。

※1 廃棄物の発生抑制(Reduce=リデュース)、資源や製品の再使用(Reuse=リユース)、再生利用(Recycle=リサイクル)のこと。

※2 グループ会社の(株)アクア・アートによる、インテリア水槽のメンテナンス付きレンタルサービス。

※3 芙蓉リース販売のヤード(東京3R、関西、九州)の中古物件販売件数

CSR活動の目標値

項目	2021年度目標
エネルギー・環境関連物件の取得 (金額)	160億円
医療福祉関連物件の取得 (金額)	190億円
グリーンエネルギーの供給 (出力規模)	140MW
中古物件販売 ^{*3} (件数)	100,000点
アクア・アート水槽の設置 (稼働台数)	1,030台
ワーク・ライフ・バランスの推進 (①年次有給休暇の取得率) (②男性社員の育児休業等の取得率)	80%以上 80%以上

共同事業型「ESCOサービス」を 2施設で導入

豊富な実績でお客様の省エネ対策に貢献する「ESCOサービス」

芙蓉リースは、アズビル株式会社との共同事業で、北海道旭川市の医療法人仁友会が運営する「北彩都(きたさいと)病院」におけるESCOサービス*1を2016年4月から開始し、サービス導入前に比べて大幅な省エネを実現しました。

JR旭川駅前にある同病院は、特に血液浄化と泌尿器科では地域を代表する高度な専門性を持ち、旭川市はもとより道北全域の患者に対応しています。

北海道は電気料金が高く、同病院では電気を主体とした省エネ、コスト削減が課題とされていました。

そこで、芙蓉リースとアズビルは、両社の豊富なESCO連携実績を説明するとともに、省エネ診断と提案を実施。同病院にとって最も効果的なESCOメニューを検討し、契約

に至りました。

提供したESCOサービスは、照明のLED化をはじめ、BEMS*2の導入によるポンプ変流量制御、空調機間欠運転制御、厨房外調機の変風量制御など各種運用の改善です。サービス開始から2017年3月までの1年間で、従来に比して電気使用量は17.6%、ガス使用量は8.0%の削減効果を得ました。

■北彩都病院におけるESCOサービスによる省エネ効果

	計画	2016年度実績
電気使用量 削減率	11.9%	17.6%
ガス使用量 削減率	7.6%	8.0%

削減率は2012~14年度の平均値をベースに比較しています。

北彩都病院は、地上7階、地下1階(延床面積/13,292㎡)で、一般病棟116床、血液浄化療法センター115床を有する旭川市を代表する病院です。



介護老人保健施設みやびの森は、2003年8月に東旭川町下兵村に開設しました。入所定員は100名(内一般棟60名、認知症専門棟40名)で、通所リハビリテーションは1日定員40名となっています。



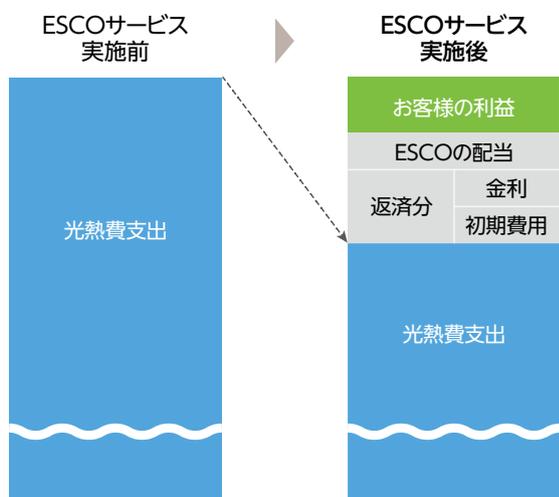
北彩都病院における省エネ効果が顕著なことから、医療法人仁友会では、同じく運営する旭川市内の「介護老人保健施設みやびの森」においても、2017年7月から北彩都病院と同様のESCOサービスを導入しました。電気使用量削減率24.3%、重油使用量 削減率8.9%をめざし、現在運用中です。

※1 ESCO(Energy Service Company)とは

ESCOは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスを提供するものです。お客様はサービスを利用することで削減されたコストからESCO事業者へ費用を支払うため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費の削減にもつながります。

※2 BEMS(Building and Energy Management System)

室内環境とエネルギー消費の最適化を図るためのビル管理システム。



Customer's VOICE



「計画を上回る省エネ効果と費用対効果の高さに満足しています」

北彩都病院では当初、省エネ対策として照明をLEDに替えることだけを考えていました。しかし、芙蓉リースからLED化だけでなく、空調制御をはじめとした機器の運用改善を含めた省エネ手法として、ESCOサービスの提案を受け、興味をひかれました。結果として、ESCOサービス導入から1年が経過し、計画を上回る実績を得ることができました。コスト面でも最も費用対効果の高い省エネ対策を実施でき、たいへん満足しています。

介護老人保健施設みやびの森でも、北彩都病院と同様、高い効果が実現することを楽しみにしています。



仁友会本部
本部長
平間 康宣 様

不要資産処分における 環境・コスト両面の課題を解決

3Rの推進に貢献する「リマーケティング事業」

Customer's VOICE



アセットマネジメントOne株式会社

アセットマネジメントOne株式会社
管理グループ 総務部の皆様

「本社移転における廃棄物抑制とコスト削減という成果につながりました」

当社は、DIAMアセットマネジメント、みずほ信託銀行の資産運用部門、みずほ投信投資顧問及び新光投信の4社が統合し、2016年10月1日に発足した資産運用会社です。投資顧問・投資信託事業における運用資産は約54兆円(2017年6月末時点)とアジアトップクラスの規模を誇り、資産運用のプロフェッショナルとして、お客さまの多様な運用ニーズに応える最高水準のソリューションの提供をめざしています。

当社発足に伴う本社移転で利用した芙蓉リース販売のリマーケティングサービスは、不要となった大量の什器、備品、OA機器の撤去だけでなく、PCのデータ消去まで安心して任せることができました。買取りにより廃棄コスト削減にもつながり、ワンストップのサービスのため、複数の業者とやり取りする手間もないなど、たいへん有益でした。

昨今、ESG*に対する関心が高まるなか、「環境負荷の軽減」は当社にとっても重要なテーマの一つです。今回は、芙蓉リース販売のサービスを利用することで「廃棄物の発生抑制」という成果を挙げることができました。

※ ESGとは環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の3つの言葉の頭文字をとったもの。



本社オフィスを置く東京駅
八重洲北口の鉄鋼ビルディング



本社の受付先のスペースに
飾られたシンボルの「書」

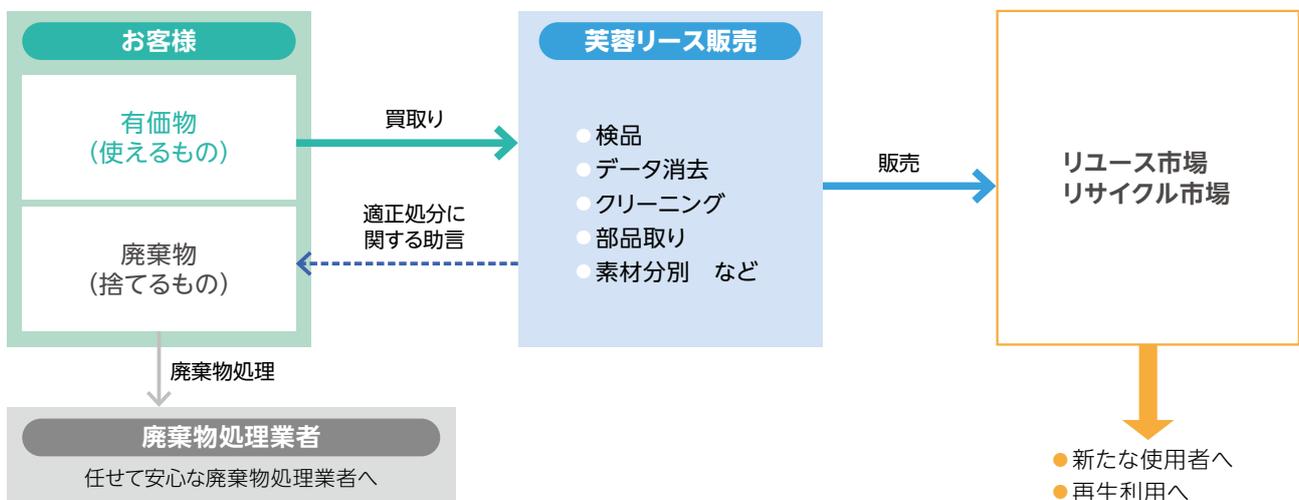
企業の事務所の移転や機器の入れ替えなどにおいて発生する不要資産は、捨ててしまえば「廃棄物」となり、廃棄費用もかかります。芙蓉リースのリース満了処理を担当するグループ会社、芙蓉リース販売では、こうした課題を解決するため、お客様の不要資産の処分に関し、環境とコストに配慮した最適なソリューションを提供する「リマーケティング事業」を展開しています。

芙蓉リース販売は、長年培ったリース満了物件処分のノ

ウハウを活かして、廃棄する中古資産のうち、有価物を買取り、リユース・リサイクル市場を通じて、新たな使用者に販売することで、再利用を促進しています。買取りにあたっては、ご要望に応じてパソコンなどの情報機器に含まれるデータ消去も承っています。

また、リユース・リサイクルが困難な物件に関しては、お客様に対し廃棄物の適正処分に関する助言も行っています。

■リマーケティング事業の仕組み



リユース・リサイクルの中核拠点

東京3Rセンター

2013年3月に東京都八王子市に移転・拡大した「東京3Rセンター」は、リース満了物件とリマーケティング事業による買取り物件をリユース・リサイクルする中核拠点です。循環型社会への貢献をめざすとともに、万全の情報セキュリティ体制による施設運営を行っています。

本格稼働した2013年度以降、取り扱い物件数は毎年順調に増加しています。



JQA-IM 1194
東京 3R センター ISR 業務



環境保全、安心な老後、 地域活性化など、 人々の豊かで快適な暮らしに貢献

20年にわたりさまざまなお客様のニーズにお応えしてきた「建物リース」

芙蓉リースが、「建物リース」の取り組みを始めてからすでに20年近くが経過しました。その歴史を振り返ると、多店舗展開を行うお客様のニーズの一つひとつ応えていくことで、さまざまなリースの仕組みが生み出されてきました。

大型のショッピングセンター、小型のファーストフード店、

量販店やフィットネスクラブ、オフィスビルやホテル、遊園地のアトラクションから介護施設まで、芙蓉リースの建物リースは人々の暮らしを豊かで快適にする多彩な「建物」の開発を陰ながら支えています。

case 1

国際戦略拠点で世界初の水素エネルギーを活用したホテルの建物リース



芙蓉リースは、ライフサイエンス・環境分野における世界最高水準の研究開発から新産業を創出する国際戦略拠点として開発中の「キングスカイフロント」(川崎市川崎区)において、世界初の水素エネルギーを活用したホテルの建物リースに取り組んでいます。

当社が施主として建設し、株式会社東急ホテルズにリースする「東急REIホテル」は、2018年に開業を予定。昭和電

工川崎事業所で作られる使用済みプラスチック由来の低炭素水素の供給をパイプラインで受け、燃料電池で電気と熱に変換して利用します。環境省の「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の枠組みを活用し、ホテル全体で使用する電気や熱エネルギーの約30%を水素エネルギーで賄う計画です。

case 2

不足が懸念されている首都圏の高齢者向け施設の整備に貢献



芙蓉リースは、建物リースをはじめとしたファイナンスサービスを通じて、超高齢化社会の問題解決にも取り組んでいます。

2017年4月にオープンした「ニチイホーム碑文谷」(東京都目黒区)は、高齢者向け施設の建物リースの3例目にあたり、閑静な住宅地に立地する介護付有料老人ホームです。

民間の有識者会議「日本創生会議」の調査によると、団塊の世代が75歳以上になる2025年には、75歳以上の人口が全国で532万人増加し、その約3分の1が首都圏に集中すると見られており、介護施設不足は早急に解決が必要な社会問題となっています。

case 3

注目されるJR山手線「品川新駅(仮称)」エリアのホテルの建物リース



芙蓉リースは、東京都港区高輪地区で株式会社近鉄・都ホテルズが2018年秋に開業を予定している客室数約200室のホテルの建物リースに取り組みます。

建設予定地は、2020年に開業が予定されているJR山手線の「品川新駅(仮称)」の駅前で、リニア新幹線の開通や周辺に高層ビル7棟の建築が計画されるなど、注目度の高い都心再開発エリアとなっています。

当社は、今後も建物リースの取り組みによって、地域の活性化に貢献していきます。

未来のテクノロジーを支え、 科学技術の進化に貢献

ベンチャー企業やファンドへの出資

人工知能、IoT、ロボット、ビッグデータ、新素材など未来に向けたテクノロジーの開発が進むなか、芙蓉リースは開発に取り組む研究者やベンチャー企業を支援しています。

研究や開発への資金提供や新しい技術を事業化するた

めのお手伝いなど、出資やリースといったさまざまなファイナンス手法で、未来を切り拓くテクノロジーの開発を積極的に支え、科学技術の進化に貢献していきたいと考えています。

case 1 「国産初の手術支援ロボット」開発中のベンチャー企業に出資



リバーフィールドが空気圧操作技術を取り入れ既に製品化・販売を行っている「EMARO」。手術時にカメラを持つ「スコピスト」の役割を果たす機能を持つ。

芙蓉リースは、国立大学法人東京工業大学発の産学連携のベンチャー企業で、国産初の手術支援ロボットを開発中であるリバーフィールド株式会社に対し、リース・レンタルなどの販促提携を前提とした出資をしました。

同社が2020年の実用化をめざして開発に取り組んでいる手術支援ロボットは、東京工業大学、東京医科歯科大学と共同開発を進めている「空気圧操作技術」によって、現状の手術支援ロボットの課題となっている「操作時の力の感覚」を確保するものです。そのうえで、さらなる小型化や低価格化を実現する計画です。

手術支援ロボットには、日本のロボット技術の実用化という面で大きな期待が寄せられており、開発が進むにつれ高い注目を集めると見られます。

case 2 東京工業大学の研究事業化を支援する「みらい創造一号」に出資

芙蓉リースは、東京工業大学関連の研究成果および知的財産の事業化を推進し、同大学に関連する研究者・OBなどの人材や最先端技術を活用するベンチャー企業を中心に投資・経営支援を行う「みらい創造一号投資事業有限責任組合」に出資をしました。

「みらい創造一号」は、株式会社みらい創造機構が中心となって設立するものです。当社は同組合への出資を通じて、東京工業大学が強みを持つ人工知能、IoT、ロボティクス、ビッグデータ解析、新素材領域の技術・ノウハウを活用し、環境・エネルギー、ライフ&ヘルスケア、海洋開発など、さまざまなマーケットニーズを捉えた研究事業化とベンチャー創出を支援します。



福島県を中心に 新たに3カ所の メガソーラーを着工

太陽光発電事業の取り組み



福島県の南相馬小高
(みなみそうまおだか)太陽光発電所

芙蓉リースは、2012年に子会社を通じて太陽光発電事業に進出。現在、全国29カ所に大規模太陽光発電所(メガソーラー※¹)を開設し、一般家庭の年間消費電力量に換算して約23,000世帯分の電力を供給しています。※²

さらに、2018年の稼働開始に向けて、福島県の富岡町と楡葉町、宮城県の七ヶ宿町の3カ所でメガソーラーの建設を進めています。新たなメガソーラーは従来の10倍近い規模となる大型の発電所で、3カ所を合わせた電力供給量は約17,000世帯分となる見込みです。※²

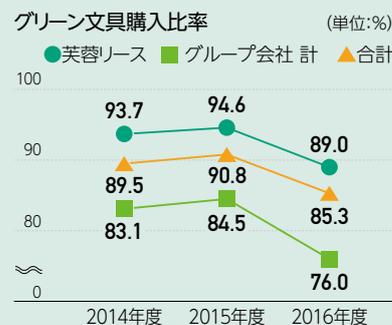
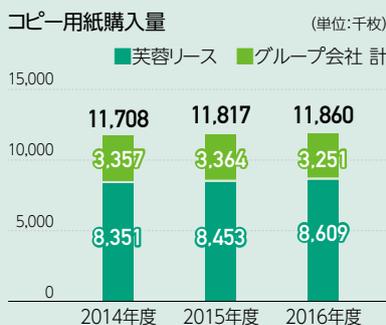
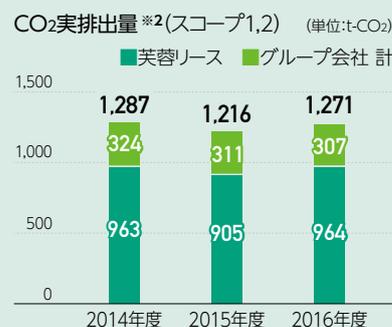
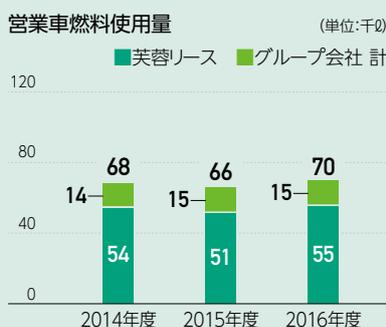
東日本大震災と原子力発電所の事故で大きな被害を受けた福島県は、「再生可能エネルギー先駆けの地」をめざし、2040年頃を目途に福島県内の1次エネルギー需要量の100%以上を再生可能エネルギーから生み出すというビジョンを掲げています。

福島県内では、すでに3カ所で当社のメガソーラーが稼働中ですが、今後も当社の太陽光発電事業がこのビジョン達成の一助となるよう、同県におけるメガソーラーの開設を進めていく方針です。

※¹ 出力が1MW(メガワット=1000kW)以上の大規模な太陽光発電所

※² 一世帯当たり3,600kWhで算出

芙蓉リースグループの環境データ※¹



※¹ 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所。

※² CO₂実排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)ただし、芙蓉リース、およびグループ各社は、特定排出者には該当しません。

※³ CO₂調整後排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の調整後排出係数を用いて算定。)

6回目を迎えた 「AQUA ARTデザイン・コンペ」

インテリア水槽を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」

芙蓉リースは、グループ会社のアクア・アートとともに取り組んでいる社会貢献活動「アクアdeスマイル」の一環として、「AQUA ARTデザイン・コンペ」を続けています。このコンペでは、芙蓉リース本社の近隣に所在する東京都立工芸高等学校、東京デザイナー学院で美術やデザインを専攻する生徒・学生さんたちにインテリア水槽内の「空間デザイン・デコレーション制作」を競ってもらい、優れた作品を商業施設などで展示して多くの方々に楽しんでいただいています。

6回目となった2017年度は、7月29日～8月6日の間、株式会社東京ドームホテルと共催で展示会を実施し、優秀な6作品をホテルのロビーなどに展示しました。作品は、通常の空間にはない「浮力」や「水流」を巧みに使い、「魚が入り込んで出られなくなる」といったトラブルへの対策も考えられた力作ばかり。「夏」をテーマにした独創的でワクワクするデザインの水槽には、親子連れをはじめ来館された方々が次々に集まりました。一般の方からの投票で最優秀賞作品を決定し、夏休み明けには表彰式を行いました。



試作品のレイアウト作業





東京都立工芸高等学校の制作グループの生徒さん:東京ドームホテルのロビーに展示した作品とともに(2017年夏)

水槽の寄贈先の子供たちに向けた環境教育活動「出前授業」を実施



アクアdeスマイルは、「都会の子供たちに熱帯魚を見せてあげたい」「アクアリウムで、笑顔と癒しを届けたい」という想いを込め、保育園や母子生活支援施設などにインテリア水槽「AQUA ART」を寄贈(無償レンタル)することから始めた活動です。

寄贈先の皆様にもっと喜んでいただけるよう、毎年夏休みには社員が児童向けの環境教育活動として、「出前授業」も開催しています。

ふだんから「AQUA ART」に接している子供たちは、熱帯魚の習性や特徴にも興味津々です。クイズ形式で進める生態系などの勉強と、そのあとの「熱帯魚すくい」は、毎回笑顔と歓声でいっぱいです。



社員の多様な働き方を尊重し、成長し続ける会社へ

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて「働き方改革」を推進

芙蓉リースは、経営理念の一つである「働きがいのある職場づくり」に向け、育児や介護に関わる社員だけでなく、すべての社員が自律的にワーク・ライフ・バランスを実現し、「仕事」と「生活」双方のクオリティを高めることができる職場環境の整備を推進しています。その結果として、2017年8月には、両立支援に積極的に取り組む企業に与えられる「プラチナくるみん^{*}」の認定を受けました。

すべての社員にとって働きやすい職場環境の整備のため、社員によるワーキンググループ「みんな活躍プロジェクト」を設置し、「働き方改革」と「多様性の推進」をメインテーマに、さまざまな活動を展開しています。

* プラチナくるみんとは、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣からくるみん認定を受けた企業のうち、より高い水準の取り組みを進める企業が受けることのできる特例認定です。



■「働き方改革」の主な取り組み

働き方の多様化	① 「選択型時差出勤制度」の導入	9時始業、17時20分終業の「通常勤務」以外に、「早出30分、1時間」、「遅出30分、1時間」を加えた5種類の勤務パターンを選択できる制度
	② 「半日休日出勤」「半日振替休日」の導入	業務効率・生産性向上を目的として、休日に半日出勤し、平日の午前もしくは午後に振替休日を取得できる制度
	③ 「+Friday(プラス・フライデー)」の導入	2ヶ月に1回、いずれかの金曜日を選択して、15時に早帰りする制度
女性活躍両立支援	① ジョブリターン制度	配偶者の転勤、出産、育児、介護などの理由により退職した社員を再雇用する制度
	② 育児支援の充実	2017年1月より、「短時間勤務制度」の対象を未就学児から小学校3年生修了時まで拡大
	③ 講演会の定期開催	女性社員を対象とした「キャリア講演会」や、全社員対象の「ダイバーシティとタイムマネジメント」をテーマとした講演会などを開催

利用制度 +Friday(プラス・フライデー)

仕事とプライベートのメリハリをつける 良い機会になっています。

エネルギー・環境営業部 星野 容子

「+Friday」の取得でできた時間は、趣味の映画を見に行ったり、平日が休みの夫と予定を合わせて2人で出かけたりする機会として使っています。以前は仕事と家事の両立に悩むこともありましたが、2ヶ月に1回でも自分の自由な時間を確保することで、気持ちに余裕が持て、翌週以降の仕事へのモチベーションにもつながっています。今後は趣味だけでなく、習い事に行くなどして、さらにこの制度を活用していきたいと思っています。



15時からの時間を
使ってリフレッシュ
しています

利用制度 育児関連制度

育児関連制度を利用して 子育てにも奮闘しています。

ビジネスクリエーション部 上草 光洋

妻の出産時に「配偶者出産時休暇」、里帰り出産から自宅に戻ってくるタイミングで「子育て休暇」と2回の特別休暇を取得しました。会社として男性社員の育児休暇取得を推奨しており、上司や同僚の理解もあったので、休暇中は安心して子育てに専念することができました。このほかに出産祝いとして育児グッズがもらえる制度もあり、社員の子育てを応援してくれていると感じます。今後も時差出勤などの制度を利用して、効率的に働きながら、家族との時間も大切にしていきたいと考えています。



妻と協力しながら、
初めての子育てに
奮闘中です

利用制度 時差出勤(遅出)

制度を利用して、子供と触れ合う 時間が増えました。

不動産ファイナンス営業部 宮園 啓次郎

「選択型時差出勤制度」で通常勤務より30分遅い9時30分の出社を選択し、朝の時間を子供との食事や保育園への登園準備に活用しています。共働きのため、家事や育児は夫婦なるべく分担したいと考えていますが、これまで平日の朝はすべて妻に任せきりで、申し訳なく思っていました。時差出勤によって私が朝の育児を担当できるようになったので、妻からもたいへん喜ばれています。また、一緒に過ごす時間が増えたことで、娘が日々少しずつ成長している様子を実感できるようになったことも嬉しく思っています。



平日も子供と触れ
合えるようになりました

利用制度 時差出勤(早出)

自分のライフスタイルに合った 時間の使い方ができるようになりました。

国際業務部 貫井 悠妃

「選択型時差出勤制度」で通常勤務より30分早い8時30分出社、16時50分退社の勤務パターンを選択しています。退社時間が30分早くなったので、自己啓発支援制度を利用して通っている英会話スクールのレッスンや、資格取得のための勉強、また趣味のゴルフの練習に当てられるようになって、勤務後の時間が以前より充実しています。勤務時間が一律でなくなったことで、この制度を利用している人だけではなく、全社的に「決めた時間内できっちりと仕事を終わらせ、帰る」という意識ができてきているように感じます。



語学や資格取得の
ための勉強時間が
毎日取れるよう
になりました

編集方針

Webサイトとの情報の切り分けを図り、より読みやすくコンパクトな冊子にしました。

「CSR報告書2017／ハイライト版」では、進捗のあった取り組みや注力している取り組みをコンパクトにまとめました。

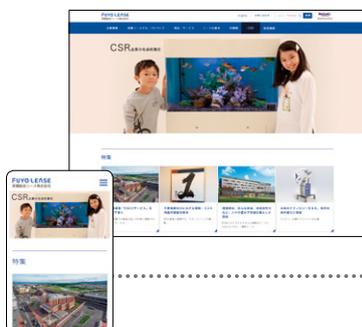
詳細な情報はWebサイトに掲載しています。グループ各社の取り組みもWebサイトで報告していますので、ぜひご覧ください。

報告対象組織 芙蓉総合リースおよび
連結子会社45社および関連会社3社

報告対象期間 2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)
※一部、対象期間外の報告を含んでいます。

発行時期 2017年9月
(前回発行2016年9月)

 <http://www.fgl.co.jp/csr/>



冊子
(ハイライト版)
進捗がある、注力している
取り組みを紹介

Webサイト、
スマートフォン
より詳細な情報を報告

表紙について

インテリア水槽 「AQUA ART」と子供たち

芙蓉リースグループは、「AQUA ART」を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」をお届けしています。

読者の皆様が「AQUA ART」と出会い、表紙の子供たちのように微笑んでくださること——

それが当社グループの願いです。



FUYO LEASE

芙蓉総合リース株式会社

〒101-8380

東京都千代田区三崎町3丁目3番23号

TEL:03(5275)8800(代)

<http://www.fgl.co.jp/>

「CSR報告書2017」お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション室

TEL:03(5275)8891 FAX:03(5275)8950



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



FSC認証紙の使用
「適切に管理された森林からの木材(認証材)」を原料として、FSC(Forest Stewardship Council、森林管理協議会)の基準に基づいた紙を使用しています。



環境負荷のより少ない植物由来のベジタブルインキを使用しています。